

各 位



2021年5月14日

会社名：スターティアホールディングス株式会社

代表者名：代表取締役社長 兼 グループ最高経営責任者 本郷 秀之

(コード番号 3393 東証第一部)

問合せ先：取締役 兼 グループ執行役員 植松崇夫

(TEL：03-5339-2109)

2021年3月期通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2020年5月15日に公表いたしました2021年3月期の通期業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期の通期業績予想と実績との差異

(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想	13,000	△200	△200	△372	△37.97
今回発表実績	13,324	21	70	△130	△13.25
増減額	324	221	270	242	
増減率	2.5%	—	—	—	
前期実績	12,778	732	771	219	22.45

2. 通期業績予想との差異の理由

2021年3月期の実績について、デジタルマーケティング関連事業におきましては、アフターコロナにおける企業のデジタル化ニーズが後押しし、SaaSツール群「Cloud CIRCUS (クラウドサーカス)」のクロスセルと新規受注が増加したことで、サブスクリプションモデル(継続課金型)の売上、利益が好調に推移したことに加え、Cloud CIRCUS関連の受託開発の受注も増加し、フロー型の売上、利益も増加いたしました。

一方、ITインフラ関連事業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による営業自粛の影響により特に第1四半期から第2四半期において苦戦いたしました。第3四半期から徐々に顧客の営業活動の回復の兆しが見え始めたことでフロー型の売

上が回復してまいりました。しかしながら、2020年12月下旬から2021年1月にかけて日本卸電力取引所（JEPX）において電力取引価格が高騰したことで、電力調達コストが増加し、利益が減少いたしました。

CVC事業におきましては、第4四半期に投資先の1社である株式会社CLEARの全株式を売却し、売上、利益共に増加致しました。

また、販売費及び一般管理費において、新型コロナウイルス感染症の影響により、広告宣伝費が想定より安価に出稿でき、旅費交通費、会議費等の経費も圧縮いたしました。

その結果、売上、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益において、2020年5月15日に公表いたしました業績予想を上回る結果となりました。

（詳細は、本日発表の「2021年3月期決算補足資料」をご参照ください。）

なお、普通株式にかかる期末配当金につきましては、1株あたり7円配当に変更はございません。

以上